

ゲテカゾフベカラズ、時好ニヨツテ變化百出スル也。山茶花、菊牡丹芍薬、百合ナドモシカリ、凡ツツジモ杜鵑花モ沙ライミ、赤土アツ土ニ宜シ、糞ヲイム、米泔ヲ時々澆ベシ、園史ニ樹下陰處ニウフレバ青茂ス、豆餅ヲ水ニヒタシ、クサラカシテ、ソ、グベシトイヘリ、正月枝ヲ赤土ニ埋ミテ、取木ニスベシ、花史曰、杜鵑花春初拔枝著地、用黃泥覆之、俟生根截斷、來年分栽、杜鵑花ヲナス法モ躑躅ニ同。

〔和漢三才圖會九十五〕山躑躅 山石榴 杜鵑花 和名阿伊豆々之、今云左豆木。

本綱、山躑躅處、山谷有之、高者四五尺、低者一二尺、春生、苗葉淺綠色、枝少而花繁、一枝數萼、二月始開、花如羊躑躅、而蒂如石榴花、有紅者紫者五出者千葉者、小兒食其花、味酸無毒、草木畫譜云、杜鵑花喜陰惡肥、天蚤以河水澆之、樹陰下放置則茂、葉色青翠可觀、有黃白二色、

一種有藤牽牛花、葉似躑躅、而花似山石榴、而大淡紫色、蓋藤者言色、牽牛花言形、

按、山躑躅高者五六尺、其花有白、有赤、有紫、有桃紅、有赤白襟開者、至三百餘種、四月始開、五月爲盛、人呼五月稱、佐豆幾、故名之、凡紀州遠州等山中、躑躅、山鵑花、共大木多、有高一二丈、周二尺許者、

攝州須磨一谷二谷至權現山、凡三四里許、遠州秋葉山麓、乾川兩邊、亦三四里許、躑躅、山鵑花甚多、

夏月滿山、頗如錦、凡正月折枝插地、則活、攝州多田鄉、圃人常栽之、販市、又木株最堅、燒炭、以爲圍炭、

園者茶湯室名、
詛曰、加久井、

〔地錦抄〕さつきのるひ 木、夏初中、

松島 白地に赤とびい 高ねいりす色赤とびい 源氏花のへり白し 吉野川 白地に赤とびい

まがき 白に赤とびい かうまよくとびい 小りん なさなみ 白地に赤とびい 入はかた白 雪白大

こふじ 小りんないに ときいり白地に赤とびい ちがさね 八重也のゆきくれない重いとへり

小ざらし 小りんないまほがまら白地にとびい ちがさねの 大りんない ころん 葉くれないとへ